

2003年4月1日  
(2002年11月3日版)

日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会

平成15年度 事業計画(案)

1. スローガン
2. 会長所信
3. 運営方針
4. 重点施策

## <スローガン>

### Y E Gが創る美しい日本

#### 「自分から、自分らしく、皆のために」

## <会長所信>

新しい世紀への期待虚しく、相変わらず混迷と閉塞を続けるわが国の状況は、あたかもエゴという煤煙が立ち込め、未来への出口が見えないトンネルの中のようなようです。濁った空気を吸いすぎて酸欠状態になった企業そして日本人は、活力を失っています。

「効率」ばかりを追求し、「自分さえよければ」「自分だけ儲ければ」の論理で動く「誰も責任をとらない」組織が生み出した、ありとあらゆる不祥事が噴出している今、我々商売人には「理念」が求められています。

自店、自企業の原点は何か。我が店は、我が社は、何のためにこの商売をしているのか。何を以って世の中の役に立とうとしているのか。自社の存在の意味・価値を自分の言葉できちんと語れることが大切です。

冷静かつ、慎重な顧客を前にして、自分の店、会社はどう顧客の役に立てるのかを問われています。その答えを自分の言葉で明快に語れないということは、結局「自分の店、会社の強み」が分っていない、「自社、自店は何を以ってして顧客のために役に立てるのか、社会に貢献しようとしているのか」を持っていないということになりはしないでしょうか？

自分の商売の本質的な役割は何か、もう一度自分の商売を定義し直してみる必要があるのではないでしょうか？

商売上の様々な意思決定の場面で必ず諮るべき「物差し」、つまり、自社の行動規範としての理念をそれぞれの企業が今一度確認すべき時だと考えます。

この時代の大転換期に、「変わらなければ」とよく言われます。変わるとは何か？ただ闇雲に過去を否定し、古いものを捨て去るということではないはずです。それは「視点を変える、視野を広げる、新しい行動パターンに挑戦する」ことだと考えます。異なる視点で、より広い視野からものを見れば、今まで見ていなかったものが見えてくる。新しい行動パターンをとる、つまり、既成概念に囚われず、やり方を工夫すれば、思いきってチャレンジしてみれば、今まで出来なかったことが出来るようになる。

Y E Gはそんな学びと気づきの場でありたいと思います。

時代の本質を察知し、その時代の要請を一旦素直に受け入れる。だが、鵜呑みにはしない。演出のための演出にはごまかされない。本質は何かを見極める目を養い、自分で考え判断する。そして昇華させ、新しい文化を創る。まさに温故知新。日本人が大切にしてきた知恵です。

守るべきものは頑固に守る。変えるべきものは勇気をもって変える。

そんな気骨ある仲間が創る Y E G でありたいと思います。

情報を求め、友を求め、また、心の支えを求めて集まった全国 3 万人の素晴らしい仲間とともに、自由闊達に語り、真剣に学び、笑顔で行動し、Y E G としての基盤である自分の商売の生成発展を実現しようではありませんか。

そして、そこで忘れてならないことは、「それは、同時にあなたの隣の Y E G の仲間にとっても同じように重要なことだ」ということです。「自分だけよければ」ではなく、「自分も相手も」です。

Y E G とはそんな暖かい仲間の集まりでありたいと思います。

元気な会社、明るい店の集まりが、活気ある地域を創り、そして世界のリーダーたるべき国、日本を創るのです。自らの個性を大切にし、自らに誇りを持って初めて、国際社会の中で尊敬される日本になれるのだと思います。

日本商工会議所の青年部としての自覚を持ち、「健康な日本」の創造の一翼を担い、気品と思いやりの溢れる美しい日本を共に創って参りましょう。

夢のない時代だと言われます。私たちの次世代に夢を持たせるのは私たちの責任であります。夢を捨てず、あきらめず、一步一步。「自分から、自分らしく、皆のために...。」

## < 運営方針 >

設立以来20年間に亘り、日本商工会議所、各地商工会議所をはじめとする関係各団体の支援・指導の下、諸先輩の多大な努力により、商青連は成長してまいりました。

「各地青年部の活動の支援」を旗印に、各大会（全国大会、ブロック大会等）や研修会（全国会長研修会、翔生塾、ヤングリーダー研修等）を通じて「交流・連携」と「研修・研鑽」主体の事業を中心に展開してまいりました。

加えて、近年では公募委員によるアントレプレナーズ委員会の活動、コミュニティービジネス委員会による各地でのNPOの立ち上げ等、連携事業の促進や新しいビジネスチャンスの創出に繋がる事業展開が具体的実績を挙げつつあります。

平成15年度は、日本商工会議所の青年部としての自覚を持ち、それらの事業の充実に加え、「会員へのより具体的なメリットにつながるビジネスチャンスの提供」と「組織としての影響力の発揮」を目指します。

また、商青連の組織は、商青連 ブロック 県連 単会といういわばピラミッド型（上意下達）では決してなく、それらの組織が同心円上を互いに有機的に関わりながら廻っている、YEGという宇宙のようなそれ自体に「いのち」がある構造体であるべきだと思います。そのいのちを活かす血流と言うべき「自由闊達な意見交換とタイムリーな情報流通を可能にするしくみ創り」にも努力してまいります。

## < 重点施策 >

### 1. 各地単会、道県府連、ブロック間ならびに、会員間の交流と連携の促進

- 1) 主催する各大会（全国大会・ブロック大会等）の充実

### 2. 研修・研鑽を通じての人材育成の促進

- 1) 主催する研修会（翔生塾、ヤングリーダー研修、会長研修会等）の充実
- 2) 研修（日商関係の研修・セミナー等）に関する情報の提供

### 3. 各地YEG（単会、道県府連、ブロック）活動への支援の強化

- 1) 各地YEG活動に役立つ情報の提供
- 2) 各地YEGの事業のヒントになるような情報・事例の提供
- 3) 連携事業の促進

#### 4. 会員企業へのビジネスチャンスの提供

- 1) Y E Gのご縁を活かした3万人の会員間のビジネスネットワーク構築
- 2) コミュニティービジネスのフォロー
- 3) 製造業の空洞化への対応
- 4) 産学官協働の促進

#### 5. 提言活動の推進

- 1) Y E G活動の成果・実績に基づく提言のまとめと発信

#### 6. P R・広報活動の強化

- 1) Y E G内部での情報流通の改善
- 2) Y E G外部への情報発信と「Y E G」ブランドの認知促進

#### 7. 組織強化と組織改革

- 1) 会員拡大（未設置商工会議所の青年部設置の促進）
- 2) 会員増強（商青連未加入青年部の商青連への加入の促進）
- 3) 「不連続の連続」の中での単年度制のデメリット克服のための研究
- 4) 「必要な情報を必要な時に必要な人へ」を目指した情報流通の改善
- 5) 組織運営改善のための継続的見直し
- 6) 未来型組織の模索

#### 8. 日本商工会議所の青年部としての日本商工会議所との連携強化

- 1) 常議員会でのアピール
- 2) 会頭・担当役員との定例会議
- 3) 小委員会への出向を通じての意見具申
- 4) 提言活動（事業の実績・成果を基に）

#### 10. 他団体との交流と連携の促進

- 1) 商工会青年部との連携
- 2) 国会議員・中央官庁の若手官僚とのコミュニケーション
- 3) その他の経済団体との交流

#### 11. 青年経済人としての国際交流の促進

- 1) C A C C I（アジア商工会議所連合会）との交流
- 2) 世界商工会議所大会への出席

12. 次世代の育成とそれに関わる教育問題への取り組み

13. 環境問題への取り組み